

榎本恵吾先生サークル ご指導

02. 9. 29

- * 神の子はもらう必要の無い存在である 神の子は与える存在である

神はすべてをすべてに与えている

始めに帰ることが与える側に立つこと

- * 神様は今、初めからそのまま完全である

神と自分は一体なのだから、今初めから文句なしの自分が

- * 自分の心を超えて 初めからそのままの文句なしの神があり

心は自分ではないのだ。すべての本である大宇宙が心だ

初めに帰れ 日々まっさらの宇宙から出発する

初めから神と在り続けた私が今いるのだ

自分は始めから完全であり、今完全である

- * 神は 大いなる生かすもの
- * 愛が出てきたら、神が出てきた証

02. 10. 20

- * 谷口雅春大聖師ご昇天直前の喜び 生長の家の根本理念であります

迷いなし、罪なし、病なし

- * 生命の実相を理解し、それを生かす道

人々を祝福するために書いてある

これから言うこと、書くことは全部祝福

- * 神様の無条件の愛を無条件に受け取れ
- * 根源（根本）の側（もとのもと）に自分を置け
- * 腹が知ってしまえば、頭で制御できなくなり、涙が出る
- * 実相を現象に現す力が弱いのは、迷いを想うから！

無いものは無いのだ！

実相は今ここにある

- * 今立て！ 実相は自分で立つ 一人の中にすべてがあるのだ

03 . 7 . 20

- * 新しい 絶対に古くならないもの

久遠に古くならないもの

神として創造する

- * 「どんな時にも、自分の中に光があるのだ。愛があるのだ」
- * 常にあるものの最大のものは神である すでにあるものに感謝する
- * 今、喜んでいいのだ
- * 観世音菩薩三十三面 33の見方がある、味わい方がある
- * すべてを受け入れる われで受け入れるのでない 神として受け入れる

03 . 8 . 20

- * 龍宮界は自分である 自分の中に入っていく
- * すべてはわれが生んでいる（そうだからそうだ）

神をも生んでいる私なのだ

もらうことの無い。すべてを与える存在なのだ

- * 幽の幽の奥の奥 その一番奥の自分である 自分の中に入っていく
- * 神の奥殿に座する祈り

すべてのすべての存在を生む存在

- * 宇宙が始まる前から私はあった
- * 「栄える」は神の栄光である

03 . 9 . 28

- * 「愛」 = 「神」
= 想うことが愛

- * 感動 = 感謝
- * **神は準備が要らない** ここまでは自分がやらないといけないものは何も無い

自分には始めから神がある

- * 神が生んだ愛情は皆に平等にある
- * 神が味方している

神が引き受けた

絶対に大丈夫。ありがたい

- * 私が宗教を始めてから自分が生まれたのではない

私は始めから生命があった それが神の生命である

- * なにもない始めの自分に帰れ

もともとの心は神である

- * **始めから生かされている生命を見、喜ぶのが神想観**
- * 始めからある自分を見失っているのではないか 「迷い」
- * 人生 = 神性 人生は神を生きることである
- * 今生かされている。今を喜ぶ

何かが出来たら喜ぶ、何かが直ったら喜ぶではない

- * 自分はいない。神に生かされていた生命があるのだ
- * **始めに帰るのが幽斎殿**

03 . 10 . 19

- * 自分の住んでいるところが幽斎殿と同じだ

すべては自分の生命なのだ 神は自分の命だ

- * **自分の中にある絶対者が神である**
- * 納まる あるべきものがあるべきところへ帰る 始めに帰る
- * 神に不完全は無い
- * 感謝せよ = 感謝せよと一緒にすること
- * 完全なるものが完全を願う
- * 神様につらいことは無い
- * 何事もすべては神様とともにあるのだ

03 . 11 . 23

- * 神の「大いなる導き」
- * 自分は雲でなく、太陽なのだ

雲の下から太陽を見ても見えない

太陽は常に光輝いている

- * 全部、全部取っ払えば無の自分が出てくる
- * 私は神だと言っているのは、それは神が言っているのだ。私が言っているのではない

私が神だということは、私は無いということ

全部、神が言っているということをしっかり知ること

- * もらう必要の無い神の存在である
- * 生かされて、喜び
生かされて、書き
生かされて、働き
生かされて、遊び
生かされて、生きる
- * 懐かしい 生命の久遠の繋がり 感謝と調和
- * 神想観は一人でやっているのではなく、もっとも広い宇宙観でやっている
- * 如意自在の実相 時間と空間を超えて必要なとき、必要なところへ、必要なものが現る
- * 久遠の神が今ここに生きているのだ

03 . 12 . 23

- * 谷口雅春先生いわく
 - ・あるものがあるんだよ。それしかないんだよ。
 - ・私もないんだよ 喜びがあるんだよ
 - ・喜びがないのに無はない
- * 神様は消えよう消えようとされている 無い、無い、無いをたどって行くと、その奥に
燦燦と光が輝いている
- * 感動することは感謝していることである
- * 我がいない道 生長の家の根本

04.01.25

- * “われ動けば天地が動く” 宇宙が動いて自分が動く 内なる神が動いて自分が動く
- * 「成就」が自分の中にある 成就に時間・空間はない 神の子とは成就の子
- * **住吉大神 成就の神なり その願いになりたもう**
- * 「成就」 実相が成る、就る 今成る、就る
- * 「出来ることから始めるのが法則」

- ・ 無限なるものがやっている 神様がやっている
- * **願いはすでに自分の中にあるから出てくるのだ**
- * 現象世界の順序や範囲を実相世界に当てはめてはダメ

実相世界には1位は一つではなくいっぱいある。範囲など無い無限にあるのだ

- * 自分の願い、想いは、あらゆる現象を超えて、既に成就しているのだ

- ・ 圧倒した想い、願いでやれ
- * 神の子なら何回でも復活する
- * **生命は外から知るのではなく、生命は中から出てくる**

- ・ 子供はコンセントや配線も無く動き回る 生命が中から出てくる証拠
- * **機械には配線や、外からのエネルギーで動く**

- ・ システムを全部用意しないと機械は動かず
- * **生命として相手を扱う 人間を機械として扱っては絶対にダメ**
- * 無限の昔から内なる神が展開している
- * すべてを神として我はない

04.02.22

- * 肉眼の目の奥に、もう一つの目がある それは神の目である
- * **自分で成らざる自分 神 自分を見ている自分 神 神である自分を見ている自分 神**
- * 「実相」は、神様が私の実相を見ているもの
- * 神は感謝そのものであるから、神様は人間を作って、人間に感謝してくださっている

ありがとうと言いたいのだ

神であるから自分で出てくる力があるのだ

- * **愛とは自分が消えないと出てこないもの**
- * 生み出す 創造

- * 自分を褒めたことがあるか なかったらそのことに対して自分に謝れ
- * 現象世界で言う1位や1番は、実相世界では一つしかないのではなく、いくつもある。無限に成り立っている

- ・ 1位外した後に自分にふさわしい1位が待っていることもある。1位を取った後、それを無くすこともある。

- ・ 一つしかない1位は自分の1位とは限らない

- ・ 自分にふさわしい1位や1番が無限にある

“ 現象界の価値観に当てはめるな。思い煩うな ”

- * 「成就」は神の栄光である
- * 「幸福と繁栄」と書けば、あるいは想えば、それがそのものなのだ

04 . 03 . 28

- * 生命に練習はない

いつも今、そのままである

神がやっているのだ

- * 兆しを感じる
- * 幽斎殿は創造の根源である

ここへ来れば、自分がどんな存在であるかを観る

自分の生命を味わう

- * 神がやっている

お前の人生に責任をもっているよ！

お前の人生は生き通しだからね！

- * 準備の要らない神

始めから、今も、久遠に

神の中に飛び込んでいく 神に頼れ

- * この「鳥居」を立てて、私が皆を拝んでいるのだ 「神社」
- * 吾らも、神様の生命を生んでいるのだ
- * どこにも喜ぶべきものがある それを知ることが無限力
- * 外から来たのではない。自らなんだ

自らは神に生かされている始めからそのままの存在である

外から与えられているということは、外に縛られているということ

- * 始めから成功しているのだよ！

外から縛られていない、自由自在の存在が創造することが、元々の成功の顕現だ

- * 生長と感動はイコールである
- * 下積みは苦勞ではなく 新しき創造 これは神を驚かせている
- * 生長の家の根本 今喜んでいいんだ

04 . 04 . 18

- * 光 喜びが燦燦と輝く 人間は何に憧れるか、それは光であり明るさであろう
- * 私(榎本先生)は始めの段階で「光」の中に“ぽん”と入ってしまった
- * 智慧、愛、生命、供給、喜び、調和は「光の海」だ
- * 無いものを無いとすることを想う 幽斎殿 すでに自分の中に宇宙が収まっている
- * 光ばかりの世界 自分が光明そのものなんだ 光明とは神の生命である
- * 生命は本番である 練習ではない
- * 練成会の練の糸は、最初から最後まで太さが一緒
- * 「奇跡」とは何か 感謝が沸き起こったこと
圧倒的に感謝することである

<例え話>

入試勉強で単語を覚えるにはどうしたらよいかという問いに対して、今まで覚えている単語に感謝しなさいといった そうしたらうまくいった

既に与えられているものに感謝すること

- * 「物質はない」ということは、それを越え、生み出す側に立つということ
- * 正統、正常とは自然にかなっているということ そういう意味で何かをするときの姿勢は大変に大事

04 . 05 . 23

- * **感謝が生きているのだ**
- * 実相は神が観ている 神が住むこの実相を観る
- * 神の懐から離れているのは私だった
- * **自分が光り輝く本尊だ** 自分を反省するのは自分を裁いている
- * **始めの始めに帰る** 神に戻ることに。生長の家的成人 始めに帰る

04.06.20

- * 喜多さんの目標と状況のお話をいただいた
- * **記憶の喜び** 記憶するということは、根本にそれを生かしたいという心がある

04.07.19

- * 美しさの中で、人を救った時の輝き、尊さが一番の美しさ
- * すべてはあるべきところにある
- * 自覚していないのに生き生きと生きている。感謝していないのに生き生きと生きている。
- * 倍感謝したら、倍価値が増える
- * 欲するもの、好きものは、すでに集まっている。それが実相である
- * **すでにあるから願いとして、出てきているのだ** 現象世界に当てはめて願いを下げてもいけない
- * 神に不足はない
- * 愛として相手の中にある神を観ること 神は喜びそのものである
- * **神は感謝したいために、その対象として人間を生んだ**

04.08.15

- * 咲 楽(わらい) 自分が展開しているのだ(花が咲く)
- * **実相は自分で顕れようとする力を持っている**
- * **自然に対しては注文をつけない。** 風のように流れていく
- * 自分が喜んでいる(我はすこしもいらぬのだ) 自分がありがたさの本源
- * **開放とは、初めからあるものを顕わし出すこと**
- * 自分には始めから本当がある (しかし、社会の諸々に囲まれて始めからモノが隠れてしまう)
- * 宇宙も我々が生み出したものだ。すなわち神が創造したものを我々が感じ取っているもの 他の動物には宇宙は実感しない
- * 自分と一番近いものは空気ではないか。モノの一つ一つも神の生命と思えるか

神の愛がモノに充満しているのだ

- * 天地宇宙が先に働きかけてくれているのだ
- * 「奇跡」の中身は感謝である
- * 5千人に対して、パンが5つしかなかった

イエスは、今与えられている5つのパンに感謝をした

そしたら5千人分のパンが生み出された 生かす力

- * 何もかもとっばらえ 始めからそのままの素っ裸になれ それが無の門関

04.09.19

- * すべての中に生命がある
- * 幽斎殿は神の生命がお座りになるところ
- * 幽斎殿は内から生み出すパワーを自覚するところ
- * 神社を建てる周囲の生命を生き生き引き立たせる
- * 私の形が本尊である(鏡)
- * 生命の実相も、甘露の法雨も鏡である
- * 忘れていても生命はずっと生きている ありがたい
- * 自分が喜ばば神が喜ぶ 人を喜ばせれば神が喜ぶ 人が喜ばば神も喜ぶ
- * 基のところが神と純粹に繋がっている
- * すべては初めからあるのだ 何も無いところから求めるのではなく 始めからあることを自覚することが人生であり、仕事である
- * 始めからあるものを自覚する
- * 我をなくせではなく、我を必要としない
- * 我々のキャリアは実相である
- * すでにあるものを顕わしたいから目標を立て実行するのである
- * 欲するもの、好きなもの、今ここにあるのだ それを顕わすのだ

04.10.17

- * 目標はあるものを顕わすのだから成るのだ
- * “無”の門関は、生命の癒しと一切を生み出すところ

始めの始めに帰る

充ちたり 生み出す

祝福と称えが神癒である

- * ご先祖を想うことは神を想うこと。一つ一つの先祖に全宇宙がある

- * すべてを取っ払って、実相はそのまま実相 (喜) (光)
- * 中心帰一とは、自分が中心にあらないといけない

一方で、“おかげさまで” というように自分がない

この二つの面を併せ持つ

04 . 11 . 14

- * **すでに満ち足りている。すでに与えられている**

作り出そう

- * “質” とは一つの中にすべてが詰っている程度のこと

価値・質と感謝の度合い

価値は量で計らず、密度で計る

- * **感謝とはすでに足りないものは何もないと思って喜んでいる状態**
- * **神が私たちに“本当に愛しているよ”と喜んでおられる**

愛が流れ入る お前を愛しているよ

- * 天照大神は“ありがとう”の塊
- * 神の愛を伝えることによって癒す
- * 明日は明日自身が処理する 道は開ける。良い風は吹く
- * “ありがとう”と思う心が感謝の心になる

04 . 12 . 26

- * 「そのまま なり、ゼロなり、一切なり、無限供給なり」 自分そのものが要らないのだ

神はすべてのすべて すなわち自分ではない

自分は神だから

自分は要らない、神様だけがいられる

- * ああしよう、こうしようではなく “ああ” このままですでに出来ている

自分はゼロなのだ

- * あるものに気がついたら、感謝できる
- * 現象とは「我」である 現象はない、ないものは無い あるものだけあるのだ
- * **信仰とは神なり そこにすべてがある**
- * “無の門関”とは、捨てて捨ててしまうことである
- * **新しさとは、人の心の中から出てくるもの。心の外で作るものではない**

イノベーションは生命の継続のために自然とリワイヤリングする

- * **出来るとは神がやっているのだから出来るのである**
- * 「神は愛なり」は神の愛なり
- * **新しいものとは何か 絶対に古くならないもの**
- * **光明とは何か 絶対に暗くならないもの**

05.01.23

- * 「甘露の法雨」は神ばかり
- * みなの中に「真理」がある
- * 一番最初は神の愛である
- * すべてのすべてにおいて、無限において広々とした一体
- * **無限の広がり喜びが神であり、自分である**
- * 我々は神の世継ぎだ
- * 自分というものはどこにもいないのだ。神が神を呼んでいる
- * 道が自分で歩いていく
- * 拝める範囲を広げる。誰にも拝める、そのまま拝める
- * **新しさとは絶対に古くならないもの 自らみずみずしく**
- * **光明とは絶対暗くならないこと**
- * **神に悪魔になる自由は無い**
- * **人間に罪を犯す自由は無い**
- * **準備や段階があっても喜ぶがあるのではなく**
うれしいからうれしいのだ
- * 今、一人でここにそのまま喜びがあるのだ

一人で成り立つ喜び

- * **実感 実感を感じないほうが良い**
限りなくゆるやかな意志

05.02.20

- * 「無の門関」 現象は無い
生まれる前から生かされている自分に戻る(現象の無い世界)
- * 今、すべてのものは生かされている
あなたは今、立つことができるのである
- * 我的姿 外に囲まれている 現象に拘束されている
- * 清めるとはあるべきところへ戻るということ
- * 内とはすでにあるもの、外とは時間を積み重ねているもの
- * 感謝とは今満足して喜ぶこと 春に木の芽が出るように自然なのだ
- * 現象はないとは、自分は無いということ。神だけが存在する
- * 生かされている 感謝 生かされている、生かされている
- * 宇宙の隅々まで感謝するものばかりである それが生かされている
- * 今の環境問題は人間の立場から考えてのアプローチ

谷口雅春先生は自然に深い愛を持っておられた

- * 過去・現在・未来という繋がりて出来ているものは外からのもの
- * 内なるものは始めからからそのままのもの
- * 聖なるもの どんなに暗くとも明るいもの
- * 続くということが徳という 徳積みとは切れる徳ではない
- * 原因や照明はいらない
- * 谷口雅春先生のご挨拶

「皆さんおはようございます。ありがとうございます」

神の子を拝むようにご挨拶された

- * 外からの比較ではなく、内の真理の自覚

05.03.20

(私見)まず、本日末一稻荷大神を拝むとき 末一稻荷大神が私と一緒に末一稻荷大神を拝んでくださった。

われ神と供にあるということは、まさにこのこと 何をするときも、すべてにおいて神と一緒にいてくださっている 本日の大きな自覚

- * 神はどこから来られるのか それは一人一人の中で出てこられる
- * 本尊の鏡に写っているのが私であり、神であり、本尊である
- * 生長の家に触れた人はすでに罪は消えているのだ
- * 出来るということは、吾が内におられる神様がされること、だからできるのである。かならず出来るのである
- * 我々に罪を犯す自由は無い 真っ直ぐな道しかない

* 人材育成

人間は材料ではない しかし人間は材料になっていないか

人間は素晴らしい創造者である

因縁を超え与えよ、与えよ もらう存在ではない 与える存在である

* 人間が神に帰ったら、すべてが神に見えてくる

* 「無の門関」 一切を超えて何も無いところに立つ喜びを発見する

* 求めることは、実相の世界ではすでに実現している、だから求めるのである

* 許すことで一番大事なことは 自分を許すこと

「神様、私はもう許されました」と祈りなさい 谷口雅春先生

* 中心帰一の本当のありようは 自分が中心にならないと中心帰一にならない

* 戦後すぐに天皇陛下が人間宣言されて、国民と平等だとされたが、生長の家では、そういう解釈ではなく、国民すべてが神において平等であるという考え方

* 桜 散っても散っても咲いてくる桜の素晴らしい豊かな生命を感じる

* 太陽は喜びの象徴

* 喜びが言動すれば喜びを生む

05 . 04 . 17

* 自分の生み出せるものであって、外より影響を与えられるものではない

* 我々は神と供に生み主である

* 現象なし 不完全なし

* 聖なるもの(無条件に) 絶対穢れないもの

実相

* 光明とは 絶対暗くならない

* その人の過去から絶対穢れない聖なるものがある

* 中から出てくるもの 外にあるものを組み合わせてるものではない

* 「始め」が関わっているもの 人工的

「始めが関わらないもの 生命

* 実感しない 実感が無いということ、見えることもないが確実に生まれている

* 生命の教育 中から沸き出でてくる

* 生命あるものと無いものの違いは 生命あるものは知らずとも成長するもの

電車は電機や電線がないと動かない。赤ちゃんは臍の緒を切ってから動き出す

中の生命で動くのか、外の力で動くのか、しっかり認識する

- * アスファルトの割れ目に咲く草がある。しかも先っぽの方が幹より柔らかい
- * 神は益々出よう出ようとしておられる
- * 何においても自分の中が聞いてくる！

05 . 05 . 21

- * 吉田国太郎先生、服部仁郎先生のこと
- * 「甘露の法雨」 実相一丸 迷い無し 吉田国太郎先生
- * 吉田国太郎先生の「空っぽ」
- * 先祖に感謝は先祖に自然に帰る
- * 生命の実相29巻 P209

「横の真理」を悟る：物質無し、肉体無し、現象世界ことごとく無しという真理

「縦の真理」を悟る：自己の本体を久遠から生き通しているところの神(仏)と一つの
ものであるという真理

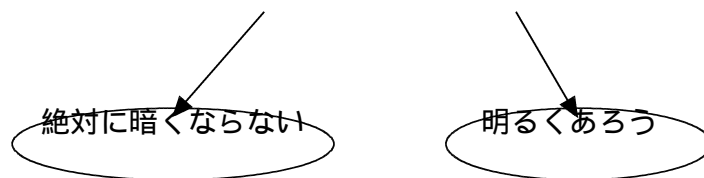
- ・自分自身を久遠の昔から不滅に生き通しているところの大生命と一つのものである
という大きな自覚を持つ
- ・ヤハネ伝にあるところの「この世の創めぬ以前から」神に愛されているイエスと一
体であると悟ること
- ・神なる大生命と、久遠のみ仏と同体であるところのわが本体に罪は無いのである

05 . 06 . 19

- * 神が創り給うたものは神であり完全なのである。間違いはないのだ！

神はそのまま間違いなし

- * 有るものはある。無いものは無い 不完全は無い
- * 我が家の先祖は神ばかり
- * 安心から始まるのが先祖供養である
- * 愛は神である 愛がやっていることは神がやっていること
- * 出来ないということは不完全なのである。 不完全はないのである
- * 全宇宙は光明なのだ 光明化運動 神ばかり、光ばかり



- * 神の子 何事においても全部出来ている。足りない、出来ていないものは何もない
- * 実相は自分が観るのではなく、実相は神が観られる 自分の中の神が実相を観てくださる
- * 実相とはこんなものだろうなと思う実相は現象である
- * 限りなく自分はいらぬ これが「我」を無くなるということ
- * 神が完全だから、私も完全である
- * 生長の家は人を集めるのではなく、拝みに出て行くものであると思う
- * 始めに濁りはなかった

次回開催予定：平成 17 年 7 月 17 日(日)

榎本恵吾先生(67 才) 平成 17 年 7 月 12 日午後 8 時 29 分 谷口雅春大聖師の下へ

私は平成 17 年 5 月 22 日に、先生から「波状光明化への道」(内なる神に捧ぐるレポート)を頂いた。

この著書の「今」を拝読し、自覚を得た。その自覚とは、「**始めの始めから そのままにして 今ある完全なる実在・完全なる生命 此処が吾が生命 今 此処に立つ**」。

この自覚によって私は、これまでの私から今の私へ転換できた。

しかしながら、その私もまだ自分の生命で立っているとは言えず、杖を求めていた。ところが、7 月 12 日 生命の実相 33 巻の「生命を礼拝する」を読み、“ああ”自分はまだ他を当てにし、杖を求めていたということが分かった。 榎本恵吾先生がこの日、ここを読みなさいと導いて下ったのだ！

私はこの 7 月 12 日午後、神戸中突堤にて海と空を見ながら「生命の実相 33 巻第一章 生命を礼拝する<二>」(P 17 ~ 29)を読んでいた。

P22 『「人間は神の子はである。病気も、悩みも、不幸も、貧乏も、煩悶も、そんなものはいっさいないのだ」こう聞かされて、ただ素直にそうかと思っていたのであります。ただ素直にそうかと思っていたけれどもまだ自分の生活全体をもってその真理を生きるというところまでゆかないで、何かほかのものを杖にしていたのであります。 悟りの上では神の子であると知っていましたが、生活の上では杖がいったのです。自分自身の生命の実相を杖にすればよかったですけれども、自分自身以外のものを杖にしていたのです。』

P23 『本当に悟るということは自己内在の完全性、無限性を悟ることで、何ものにも頼らなくなることであります。自分自身の生命に内部の生きる力に、本当に頼りきれようになるのが本当の悟りの境地であります。その時までわたしはほかのものを頼っておった。ともかくわたしは自分の生命のみ本当に頼ろうとその時決心したのであります。』

P25 『わたしは経済的条件がよくなってから雑誌を出そうと考えていた。 これは条件づきの

生命しか悟っていなかったのです。ところが俱胝和尚が小僧の指を切ったように、泥棒が来て二度その「経済的条件」の指を切ってくれたのです。もう頼るべきものとはではない。わたしは指の無い指を堅てねばならぬ。その無い精力で立たねばならぬ。わたしは会社の勤務で疲れている。わたしは精力がなくてフラフラである。その無い精力で立たねばならぬ。もう絶体絶命です。絶体絶命はついにわたしを生かしてくれた。精力が無くとも経済的条件が整わなくとも、ともかくわたしは起とう こう決心したのが十二月の十三日であります。捨てたときに生きてきた。そこから運命が拓けてきたのであります。』

注) P21 『泥棒が入って二度目にまた箆筒の中を空っぽにしたのであります。それが昭和四年十二月十三日のことであります。』

P27 『隻手ならんと欲すれば声出でず、声を出さんと欲すれば隻手なること能わず。これが絶体絶命です。矛盾の条件が両方から迫って来ている。一方の条件を完うするには一方の条件がかなわぬ。そこで両方の条件をかなえようとするには、現象に捉われた有限智では駄目だということになるのであります。そこで現象を飛躍しなければならぬ。生長の家の飛躍は実際生活で行なわれているのです。たとえば中風なんかで杖をついて来られる人がいる。その人は杖がなければ倒れる。「杖なくして中風患者が倒れないで歩く道はいかに？」これは実際生活上の公案です。杖と中風とを握っている限りはその人は飛躍を遂げることはできないのです。そのとき「杖を棄ててしまいなさいよ」というのは公案の解けない人に対する一喝です。「杖を棄てたら倒れます」と中風患者は言う。「倒れたら倒れなさい、倒れても倒れないものがあなたの中にある」とわたしは言う。倒れたら、肉体は倒れている。倒れても倒れないもの それは肉体ではない、そこでその病人は今まで肉体を治そう治そうと思って肉体に執着していた視線がクラリと一転する。自分は肉体ではない、何にも頼らないで生きられる生命そのものが自分だということとその人がお知りになる。

両刀論法に陥って窮したあげく、現象を飛躍して生命の実相に跳び入ったときに中風が治るのです。これは悟りに伴う随伴現象であって、もし悟りというものが宗教においてできるならば、悟りは窮して後に通ずる飛躍の境地でありますから、病気ぐらいは治らなければなら

ないのです。これが「生命の実相」を読んで病気が治るという根本原理でありまして、読んで
いるうちに生活上の絶体絶命を超越してしまうのは、わたしが実際生活において右するも不可、
左するも不可の両刀論法に陥ったとき、飛躍して救われた生活体験が書いてあるからです。そ
の当時わたしの肉体は中風ではなかったけれども、生活は中風であったのです。生活に杖がな
ければ歩けなかったのです。時間の余裕とか月給とか貯蓄とか、生活が楽になったらとかいう
杖に頼って、そうしてヨチヨチ歩きをしておったのです。その時泥棒が来て杖をハッと奪って、
「お前のその突いている杖はいつまでも俺が奪ってやる。それでも立つ道はいかに？」とやっ
てくれたために、わたしはハッと気が付いて一人で立つ生活ができるようになったのです。窮
通の悟り　これが生長の家の教えです。現象智は必ず一方で都合がよくても、それを実行して
いると一方で行きづまる　その行きづまりから悩んでいる　病気もその悩みの一つである　そ
の行きづまりを解くには、現象に捉われず、指なくして堅つ指、杖なくして歩く中風、薬なく
して治る生命、隻手で鳴る拍手を体験しなければならぬ。指を捨て、杖を捨て、隻手を捨て、
いっさいの物質を捨て、なお堅つ指があり、走る中風があり、拍手する隻手がある　これを自
覚したとき、人間は本当の生命の自由を体験するのであります。』

「今」の資料を平成 17 年 6 月 12 日「全国栄える会会頭・事務局長研修会(宇治別格本山)」
終了後、榎本恵吾先生に提出した。先生ニコニコ笑って受け取ってくださった。

榎本恵吾先生がご昇天なされるその日に、私に「今」が生き出した。

久遠の師であります　榎本恵吾先生　ありがとうございます。

榎 本 恵 吾 先 生

「一の会」ご指導綴り

平成 17 年 7 月

友江允有己